



世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 84》2020年2月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～
【九重町／玖珠町】



(九重町)九重森林公園スキー場



(九重町)旧久留島氏庭園



(玖珠町)中塚不動尊



(玖珠町)八鹿酒造

新たにめじろん海外サポーターに任命

立命館アジア太平洋大学を卒業し、現在インドネシアで活躍されている留学生OBのアナンダ・セティヨ・イヴァンナント(Ananda Setiyo Ivannanto)さんが、1月22日(水)開催のアジアビジネス研究会での講演のために来県。これに合わせ、中島企画振興部長がめじろん海外サポーターに任命しました。インドネシア出身者としては初のめじろん海外サポーターとなります。

イヴァンナントさんは大学卒業後、再生可能エネルギーなどの環境関連事業をはじめとし、日本とインドネシアに関係する幅広いビジネスに従事されており、日本企業の進出サポートをしているコンサルタント会社、PT Awina Sinergi Internationalの代表取締役社長でもあります。

任命式では、「大分県への恩返しとして、大分県や県内企業を応援したい。」と語り、また、大分県の温泉観光設備開発や農業開発等の取組に関心を寄せているとのことでした。

任命式後に開催した、第4回目となるアジアビジネス研究会では、「インドネシアビジネスの概況や進出の際の注意点について」と題し、インドネシアの商習慣や文化の違い、パートナーの探し方、成功事例や失敗事例等について講演をしていただきました。

講演終了後には、参加者から「インドネシアでのバイオマス発電の現状はどうか」、「インドネシアから見た日本のよいところはどんなところか」等質問がありました。

セミナー後には、交流会も開催され、参加者間で親睦を深めました。

イヴァンナントさんが、今後、大分県とインドネシアの架け橋として、ますますご活躍されることを期待しています！



イヴァンナントさん(左)と中島企画振興部長



アジアビジネス研究会での講演の様子

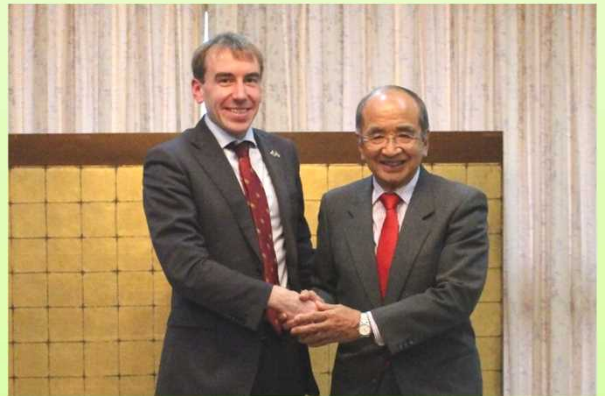
ウェールズ政府日本代表事務所代表が知事を表敬

昨年のラグビーワールドカップ2019日本大会に出場したイギリス・ウェールズの政府日本代表事務所のロビン・ウォーカー氏が、知事を表敬訪問しました。

ウェールズは大分市でプール戦と準々決勝の2試合を行い、ともに勝利しベスト4に進出しました。ウォーカー代表は、「大分のみなさんの応援が、大きな後押しになった。特に準々決勝フランス戦の大逆転は、16人目の選手である大分のみなさんのおかげで勝つことができた。また、大分のホスピタリティは素晴らしく、観戦者みんなが思い出を持って帰ることができた」と話されました。

広瀬知事からは、「海外からたくさんのお客様を迎えて、みなさんと楽しんだ経験は、県民にとって自信になった」とコメントがありました。

また、継続的な交流についても意見交換が行われ、ウォーカー代表からウェールズと大分県と今後の交流に向けた覚書の締結についての提案がありました。



海外大分県人会交流掲示板 台湾大分県人会

12月22日(日)に台北市北部に位置する”陽明山(=七星山)”ハイキング企画を実施しました。

当初は、12月7日(土)に企画されていたのですが、生憎の雨天により中止となりました。が、台湾大分県人会の活動として、月例会食会(飲み会?)だけでなく、健康的?な活動で、”台湾大分県人会の旗”を七星山主峰に連れてやりたい気持ちを抑えられず、リベンジ企画となりました。

前日、天候が少し心配されましたが、登山経験豊かな木津隊長(会長)の先導により、曇り空の中、皆さん遭難、怪我もなく無事登頂、下山しました。

今後も台湾の色々な場所に旗を連れて行ってあげようと思います。(台湾大分県人会 平野さんより)

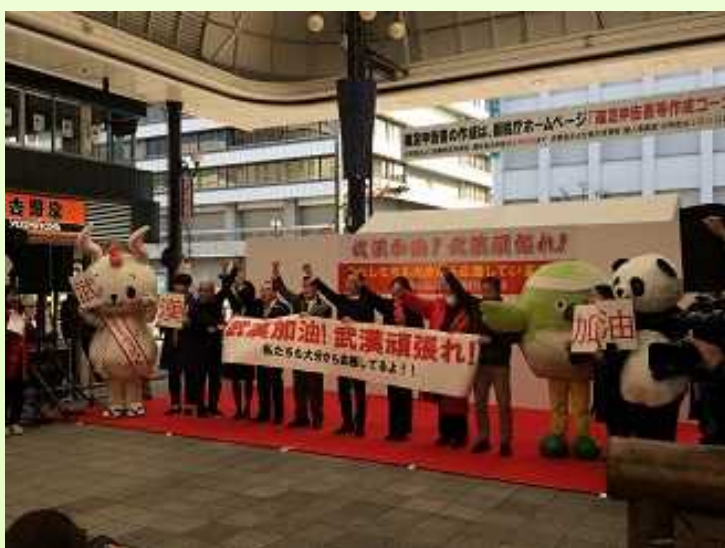


「武漢加油！（武漢頑張れ！）」春節関連イベントが開催されました

2/2(日)に大分市のガレリア竹町ドーム広場で、大分華僑華人会が武漢市を応援するイベントを開催しました。華人会では毎年この時期に「春節祭」を開催していましたが、今年は中国全土で新型コロナウイルスの感染拡大が続いているため、祝賀の演出を控え、武漢を応援するチャリティーイベントに切り替えました。

ステージでは大分市の佐藤市長から武漢市に対する応援のあいさつがあり、中国駐福岡総領事館の康暁雷総領事代理からは、大分市からの支援に対するお礼などについてあいさつがありました。その後、参加者全員で「武漢加油！（武漢頑張れ！）」とエールを送りました。

会場では、募金コーナーが設置され、参加者等が募金に協力していました。華人会では今回集まった募金でマスクを購入し中国に送る予定です。



チャリティーイベントの様子



募金に協力する方々

また、同じ日に大分県日中友好協会が大分市内で春節イベントを開催しました。イベントには会員や留学生、県内に住む中国人が参加し、二胡の演奏、少林寺拳法の演武、日本人学生による中国語スピーチなどが行われました。参加者はやはり、武漢を支援したいという思いが強く、会場では募金が行われ、最後に「武漢頑張れ！」のエールを送りました。

このほかにも、県内では民間団体による支援物資提供の動きがあり、武漢支援の動きが広がっています。武漢加油！



日中友好協会春節祝賀会の様子

市町村からのお知らせ【日出町】

【海の城下町】日出城址周辺

南側を別府湾に面した中心部の町並みは、江戸時代から続く城下町としての趣が随所に感じられます。豊臣秀吉の正室・高台院(北政所)の甥にあたる木下延俊が、日出藩を与えられ築いた日出城址をはじめ、町内には木下家ゆかりの史跡が残っています。

日出城跡には石垣が現存し、本丸跡には日出小学校が建てられ子どもたちが歴史を感じることができる学び舎になっています。また、城址周辺には心地よい潮風に吹かれながら歴史を感じることができる散策路が広がり、桜が咲く春には、多くの方が訪れ風光明媚な景色を堪能しています。本丸下の城下海岸は、日出町の特産品でもある「城下かれい」の名の由来にもなっています。



【ひじめいど】日出に暮らす人がつくる商品をリ・ブランディング

「ひじめいど」とは日出町の自然やストーリーを元に、日出に暮らす人がつくる商品をセレクトして、リ・ブランディングする取り組みです。

第一弾として認定された日出町川崎の企業「株式会社グリーンエルム」の商品「ユーカリ消臭抗菌スプレー」が、全国商工会連合会主催の「むらおこし特産品コンテスト」で審査員特別賞を受賞しました。本年度県内での唯一の入賞となりました。

同商品はふるさと納税の返礼品になっており、商品が評価されることによりユーカリ栽培による耕作放棄地の活用や、雇用拡大など地域課題の解決にも繋がると期待されています。



【日出町 政策推進課】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（1月）

News

【12日(日)】住みたい田舎ランキング 県勢4部門で首位独占

移住希望者向けの月刊誌「田舎暮らしの本」（宝島社）の企画「2020年版住みたい田舎ベストランキング」（人口10万人未満）で、豊後高田市が「総合」と「子育て世代」部門で1位になりました（総合は2年連続）。臼杵市は「若者世代」「シニア世代」両部門で1位。そのほか日田、国東、宇佐、杵築の4市が各部門のトップ10に名を連ねました。豊後高田市は6年連続で人口社会増を達成しており、保育料・幼稚園授業料・給食費・高校生までの医療費の無料化など数多くの定住支援策が用意されています。さらに移住者向けに宅地を造成して無償提供したり、移住者や市民が交流を深めるイベントも行われています。

News

【15日(水)】郷土出身選手ら 抱負を語る

東京オリンピック・パラリンピックまで半年を切りました。県は15日に昨年11月のパラ陸上世界選手権（ドバイ）の女子走り幅跳びで初優勝した由布市庄内町の中西麻耶選手（34）に県民表彰を贈りました。中西選手は8月に開幕の東京パラリンピックで「金メダルが取れるよう努力を続ける」と語り、大会で世界新記録を出したいと意気込みを見せました。野球界でも中津市出身で、プロ野球からメジャーリーグのブルージェイズに移籍した山口俊投手（32）が同日アメリカのトロントで入団記者会見を行いました。「僕の中でメジャーリーグは野球の最高峰。そこでどれだけ自分が通用するか。頑張っていきたい」と抱負を語りました。

News

【12・24日(日・金)】高校生スポーツ界 一足早く春の呼び声

県内のスポーツでは高校生の活躍も見逃せません。第72回全日本バレーボール高校選手権の決勝戦が東京で行われ、女子の東九州竜谷高校（中津市）が8年ぶり7度目の優勝を果たしました。決勝では古川学園高校（宮城県）に3-0のストレート勝ちでした。24日には第92回選抜高校野球大会に出場する32校中の2校に明豊高校（別府市、2年連続4回目）と大分商業高校（大分市、23年ぶり6回目）が選出されました。この大会に選ばれるには昨年の秋期大会での地区大会で上位に入る事が必要とされています。一般選考の九州枠で県勢の2校が2年連続で出場するのは初の快挙。3月19日に組み合わせ抽選会、3月19日から甲子園球場で開幕です。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

From our Reporters

県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



金 眞雅
(Kim Jina)

「What's up, OITA!多言語版」取材のために「COMICO ART MUSEUM YUFUIN」に行ってきました。

湯の坪街道からほど近い場所にあるこの美術館は新国立競技場を設計した建築家隈研吾が手がけており、焼き杉をふんだんに使った真っ黒な外観がとても印象的でした。村上隆、杉本博司の現代アートが展示されているギャラリーもモダンな作りで、美術館全体が一つの作品に見えます。



2階のラウンジからは雄大な由布岳が一望できて、その由布岳を背負っているように見える巨大な犬（奈良美智作）が去年12月から新しく登場した作品です。

有名アーティストの作品が集まっているこの美術館は事前予約制のツアー形式になっていますが、その理由は美術館に行ってみたら分かりますので、気になる方はぜひ足を運んでみてください！



シェ シンラン
(Xie Xin Lan)

大分市内から車を40分ほど運転したら、別府市街地を一望できる十文字原展望台に着きます。お正月休みの間に友達とドライブに出かけ、夜の十文字原展望台に行ってきました。街の灯りに飾られた海岸線は朝の露のしずくのように輝き、とても素敵でした。前回訪れたのは真夏日で、その上、正体不明の虫に刺されて色々大変だったけれど、今回はきれいな冬空の下で同じ風景を観たら、別府の魅力を再発見できた気がします。

三日月の夜で、街灯は一本もなく風も寒いので、さすがにあまり人はいないだろうと思いきや、スマホのライトを付けたら周りにカップルが結構いました。十文字原展望台は有名な夜景スポットだけではなく、デートスポットとしても名を馳せているでしょう。



1月30日に、J:COMホルトホールで国際理解講座②—中国編を行い、全15名・3つのグループに分けて参加していただきました。

受付は10:00からで、10:30までにキッチンスタジオを中国風のポスターや中華結び、ランタンで飾り、食材をテーブルの上に置いておきました。流れとしては、一緒にギョウザを作って食べた後で、普洱茶と中国のお菓子サチマを食べながら、中国の春節について紹介する講座を受けるというものです。

買ってきた皮を使ったので、一番難しいのは包み方だと思います。皮が薄いので、皮の外周と真ん中に水をつけ、その上にもう1枚を重ね貼り付けます。人によって包み方が違いますが、皆の協力でおいしく食べることができました。

講座では春節の由来、風習、食物と挨拶について紹介しました。皆さんが一番興味を持ったのは、中国の春節が「年」という想像上の動物に関係があることでした。また、中国の新型肺炎流行下での今年の過ごし方や「健康と平安」が皆さんの何よりの願いでした。



ピョウ センテイ
(Miao Zhanting)



県内の最新の観光情報はこちらからご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)

<https://www.visit-oita.jp/>

話題提供のお願い！



県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:藤原【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp